

学び舎通信

炎舞隊、キャンプ実行委員募集が始まりました！

募集を開始してまだ数日しか経っていませんが、炎舞隊やキャンプファイヤー実行委員に参加したいという申し込みが増えてきました。「小学校での経験を生かしてもう一度」「やったことはないけど、チャレンジしたい」などの声を聞きます。前向きな姿勢は大切にしてほしいと思います。募集期間は、来週21日（水）まであります。少しでもやってみたいという気持ちがあれば、申し込んでみてください。もちろん申し込んだら、最後まで一生懸命やりとげて、これからの学校生活を送る上での自信につなげてほしいと思います。

豊かな学習を

テスト範囲表とにらめっこしてテスト勉強に励んでいることでしょうか。今は難しいかもしれませんが、テストが終わったらぜひ取り組んでみてほしいことがあります。それは「言葉の語源を探る」ことです。

例えば、故事成語。みなさんが授業で習った「矛盾」のほかにも、「完璧」「井の中の蛙大海を知らず」などがあります。その中でも私が好きな故事成語は、「知音（ちいん）」です。「互いによく心を知り合った友」「親友」という意味です。この「知音」の物語を紹介しましょう。【参考ホームページ：『知音』書き下し文・わかりやすい現代語訳（口語訳）と文法解説（<http://manapedia.jp/text/1952?page=2>）】

伯牙（はくが：中国春秋時代の人物）は、琴の名手です。彼が琴を弾くと、その音から伯牙が表現したい景色を言い当てる友人・鍾子期（しょうしき）がいました。

泰山（たいざん：世界遺産になっています）を思い浮かべて琴を弾くと、「すばらしい。まるで険しい泰山のように高く険しく感じる」と答えました。

また、川の流れを思い浮かべて琴を弾くと、「すばらしい。まるで広大な川の流れのようだ」と答えるのです。

しばらくして、鍾子期は亡くなりました。すると、伯牙は琴を壊して弦を切り、二度と琴を演奏することはありませんでした。

自分が音、言葉、絵で表現したものを理解できる友人がいるとしたら、きっと強い信頼感で結ばれることでしょうか。

国語科の授業で使っている『国語便覧』には、214ページから故事成語についての説明があります。

「漁夫の利」「五十歩百歩」「守株（しゅしゅ）」など、気になる故事成語が登場します。他にも魅力的な内容がありました。時間が空いたときに手にとって読んでみるのもおもしろいのではないのでしょうか。（文責：水野 千広）

増えるといいな

一日が始まる朝、みなさんの机がきっちり整っていることに気付いたことはありませんか。それは誰が整えてくれているのでしょうか。帰りのSTの後、乱れた机を整えてくれる人がいるのです。他にも黒板をきれいにしてくれたり、配布物を配ってくれたりする人たちがいます。進んで動いてくれる人たちが増えていくのが楽しみです。

